

## 東京湾再生官民連携フォーラム H28～H30 事業計画、平成 30 年度事業計画

### H28～H30 事業計画

#### ◆申請活動実施概要

#### I.中長期計画（H28～H30）

東京湾再生官民連携フォーラム（以下、「フォーラム」と言います。）は、「東京湾の再生のための行動計画（第二期）」（以下、「第二期計画」と言います）の内容を着実にさらに進めるため、H25 年～H27 年の実績のもとに、H28 年から 3 年計画で以下の柱の活動を計画します。

今後 3 年間の目標は、東京湾再生の再認識・意識を高めるためのフォーラム活動の飛躍と加速（生活者、湾岸住民に対して、さまざまな分野においての東京湾への興味・関心を引き、意識変革を起こす活動を実施し、東京湾再生・環境への意識共有の輪を広げる）を図ります。

#### ≪目標実現のためのポイント≫

1. 平成 30 年度はフォーラムの成長期と位置づけての、3 年目となります。引き続き自立に向けた検討、取り組みの検討を進めます。（フォーラム法人化検討委員会：法人化の検討、資金の確保の検討、関係パートナーの構築、組織営業、組織形態の整備など）

#### フォーラム法人化検討委員会の設置

##### ■設置の位置づけ

- ・平成 28 年 10 月 22 日（土）第 1 回目を開催し、議論の方向性を確認しながらスタート。第 2 回目の検討会を平成 29 年 3 月 14 日（金）に開催しました。

・

- ・メンバー構成：来生委員長、官側、民間側、支援団体組織、事務局

※テーマ：検討の報告と方向性：情報収集、解析など行い検討委員会を開催しました。

##### ■1 年目 テーマ設定の元、情報収集、事例研究を中心に幅広く議論し、認識を高める。

（法人化に向けた課題の抽出と目標の設定/具体的事例研究及び実務シミュレーション作業、法人化構想案の作成）

- ・検討に当たっての前提としては、現状の法体系、仕組み、ルールの中で検討
- ・事例解析および課題の整理
- ・資金源の検討など(会費、事業収益など)

■平成 29 年度・2 年目：<中間報告>

(法人化に向けた目標の設定/具体的事例研究及び実務シミュレーション作業、法人化構想案の作成)

- ・資金源の強化の検討など(会費、事業収益など)
- ・アライアンスパートナーの方策検討

■平成 30 年度・3 年目：<検討結果報告> 事務手続き（企画運営委員会/総会 審議承認）

- ・資金源の確保、開発・維持強化(会費、事業収益など)
- ・組織営業の強化・組織形態の整備
- ・関係スキームの強化（アライアンスの検討・実行など）

2. 政策提案の面的広がり活動

1) 政策提案の増加（累計目標 5～7 件）

平成 28 年度政策提案：東京湾パブリック・アクセス方策検討 PT が中心となり、東京湾パブリックアクセス方策に関する第一次政策提案をフォーラム総会で承認（平成 29 年 3 月東京湾再生推進会議へ手交）

平成 30 年度予定：東京湾での海水浴復活の方策検討 P T

東京湾での海水浴復活の方策検討 PT は、平成 29 年度の政策提案に向けた検討をして来ましたが、葛西海浜公園での海水浴復活の成功事例を他地域でも応用できるよう、提案の構成を整理し、行政にも応援を求め、更に検討を進めることとなりました。

それぞれの特徴を活かした PT 活動の連携（情報交換）

①調査研究傾向型 P T と②実行・実践傾向型 P T と③両面性型 P T の 3 つの傾向があります。

《調査研究傾向型 P T》

生き物生息場づくり PT、指標活用 PT、モニタリング推進 PT、東京湾の窓 P T

《実行・実践傾向型 P T》

東京湾大感謝祭 P T、

《両面性型 P T》

江戸前ブランド育成 PT、東京湾での海水浴復活の方策検討 PT、東京湾浅瀬再生実験 P T、

- ・累計 3 件の政策提案のフォロー・サポート支援
- ・情報交換を主とした PT 長会議の実施（年 1 回）

2) 「東京湾の再生のための行動計画（第二期）」中間成果報告の評価

東京湾再生推進会議では、「東京湾再生のための行動計画（第二期）」が平成 25 年の策定から 3 年が経過した段階で、中間評価を行うこととなっており、平成 29 年 3 月 17 日、東京湾再生推進会議から、中間評価結果が発表されました。

この中間評価は、フォーラムから提案された「新たな指標に関する提案」も参考に評価されたものです。

評価の結果、多くの施策が着実に実施され、10 年間で達成すべき目標について 3 年間で達成している 評価指標があるなど、水質や環境の一定の改善が見られました。しかし、東京湾全体の水質改善に向けては目標の達成に至っていない状況です。（平成 29 年 3 月 17 日国土交通省プレスリリ

ースより)

3. 影響力を高め飛躍するための組織力の強化（情報交流・PT 同士など組織体の交流の実施。海域から陸域までの拡充、交流団体目標 60 団体：平成 30 年度企業 30 団体、NPO・諸団体 30 団体（平成 29 年度は行政・企業 18 団体、NPO・諸団体 28 団体交流）

平成 30 年度は、引き続き交流会を実施するとともに、東京湾大感謝祭 2018 においても交流の輪を広げる企画の実施検討予定。

現在、海域の活動団体・組織が中心ですが、陸域で活動している団体へも交流の機会を増やしていく計画です。

4. 活動反響効果を高めます。東京湾を意識する量的活動に加え、質的活動の実施により情報共有から意識共有を図ります。引き続き東京湾-News Letter として、外部への影響力を高め、会員、PT 同志の交流促進を図ります。

情報提供量の拡大（ニュースリリース、HP の拡充、各 PT 活動の広報実施活動などコミュニケーション力を高めた会員の拡充、東京湾への都民、首都圏域生活者の「東京湾再生・魅力」ファン創り、事例作りの実施など）

#### 東京湾再生アンバサダーの活躍の拡大

平成 28 年 3 月に東京湾再生アンバサダーが誕生し、東京湾大感謝祭 2016、2017 の広報や、東京湾の環境再生について、新聞、雑誌、TV 等を通じて PR をして頂きました。平成 30 年度は更に多くの方々に東京湾再生の取り組みを知っていただくために、機会あるごとに情報発信をお願いします。

- ・東京湾大感謝祭におけるプレゼンテーション
- ・テレビ、ラジオなどメディアに取り上げられる機会の増加

○東京湾再生アンバサダー（平成 30・31 年度委嘱継続依頼中）

1. 榎 太一<sup>ます たいち</sup>氏（日本テレビアナウンサー）
2. ガリガリ君（赤城乳業株式会社 キャラクター）

5. 東京湾の環境活動&魅力向上活動（各 PT 活動の強化）

- ・首都圏にふさわしい東京湾の創出（アクセス PT 活動などにより、容易に海に近づくことができ、親しむことができる湾の創出活動。環境観光&産業・スポーツなどの側面を検討していきます）
- ・東京湾の環境再生に関する情報収集を実施し、東京湾イベントカレンダーによる情報提供活動などを実施
- ・江戸前の具体化（環境をトラッキングできる魚種を選定して、今の旬を探る活動の実施と共に、日本の食文化＝江戸前文化を取り上げ調査研究の実施。また、旬な魚介の情報などの提供を実施）

#### <実施概要>

##### ●PT チームの活動強化

- ・平成 30 年度は「東京湾浅瀬再生実験 PT」、「東京湾の窓 PT」の活動強化をめざします。

・更に充実した江戸前 PT 活動。文化・食・歴史など多様な人材の取り込みを検討・実施いたします。

#### ●交流・連携活動

- ・広報・情報交流のための P T の連携を進めます。連携チーム編成（横展開）、展示会やイベントなどへの出展活動の実施など（具体的には、関連シンポジウム、セミナーなどへの後援の実施）
- ・東京湾環境活動の強化：東京湾エコプログラムの開発・検討（誰でもがウェブなどから東京湾再生の知識が身につく簡単ツールの提供）

#### ●情報の（提供・仲介）受発信・交流（広報）

- ・都内・首都圏域における啓発活動の実施。フォーラム企画展、フェス、シンポジウムなどの開催・実施。（又は感謝祭でのフォーラム企画展の実施、他のイベント・展示会などへの出展活動など）
- ・実現した政策提案の裾野を広げます。（興味関心ごとを引くニュース性のアップなど）
- ・交流会・活動事例の強化を図ります。
- ・会員活動を区分し応援共有していただくファンづくりにトライいたします。例えば、東京湾ファンクラブなどの名称による意識向上を図り、東京湾・江戸前の認識を高めます。

## 平成 30 年度事業計画

### II. 平成 30 年度の活動内容

平成 30 年度は以下の活動を行います。

#### 《活動内容》

##### 1. 情報（提供・仲介）の受発信・交流（広報）

1) 情報発信の基盤として構築したフォーラム専用のホームページ（以下、「HP」と言います。）を継続運用し、全体的な活動内容の情報発信を行います。引き続きフォーラム活動の NEWS として活動経過を順次掲載します。さらに企画運営委員会の議事概要、フォーラムの事業報告・活動経過を情報提供していきます(メール配信目標数：48 通)。また、facebook を引き続き活用していきます。

2) 東京湾再生に係る官民連携の協働活動を推進するプロジェクトチーム（以下、「PT」と言います。）の情報強化を行い HP では、この活動情報を随時公開していきます。これらの PT 活動をわかりやすく皆様に伝えるニュースなどを紹介します。

なお、現在設置されている 9 つの PT は、次のとおりです。①生き物生息場づくり PT、②指標活用 PT、③モニタリング推進 PT、④東京湾大感謝祭 PT、⑤江戸前ブランド育成 PT、⑥東京湾パブリック・アクセス方策検討 PT、⑦東京湾での海水浴復活の方策検討 PT、⑧東京湾浅瀬再生実験 PT、⑨東京湾の窓 PT。

3) HP による会員入会案内を実施しています。随時フォーラム会員の団体・個人の登録受付を行い、会員管理を実施していきます。都度ごとに会員へのメール配信を実施していきます。現在会員は個人 298 名、団体会員 118 組織になり、会員は継続して募集し、目標増として、引き続き個人 500 名の加入、150 組織の会員加入を目指します。また、PT 会員などへの参加も必要時に募集対応し

ていきます。

#### 4) HP へのアクセス数の充実

東京湾大感謝祭と共にフォーラム活動の認知をさらに広げるための活動を実施いたします。  
facebook の活用など幅広いウェブコミュニケーション活動を実施、現在進めている交流活動につな  
げていきます。(参考：201710/01-11/01 期間：HP・167,068pv)

5) フォーラム活動の幅広い認知を図るため各種イベントや展示会への参加を行います。最初は、首  
都圏自治体などが開催している港まつりなどへの協力関係、人的つながりを図り、東京湾に面した  
自治体への協力とともに展示参加を進めます。

6) 東京湾沿岸域のイベント情報の発信。東京湾大感謝祭の活動を点の活動から面の活動を心掛けて  
いきます。東京湾への関心を高めるため、東京湾沿岸域のイベント、フェアとの連携を模索してい  
きます。具体的には、相互での告知活動やフォーラムロゴを使用した連携を図ります。また、フォ  
ーラム会員が主催する東京湾での活動やイベントなどをフォーラムHPで紹介していきます。

・東京湾沿岸域のイベント、フェアとの連携

イベント情報一覧表を作成し、ウェブ上での公開を図り、平成 29 年度に引き続きさまざまな方に  
フォーラム活動を周知いたします。

7) 東京湾再生アンバサダー就任継続依頼を実施しています。東京湾再生の取り組みを知っていただ  
くために、機会あるごとにアンバサダーによる情報発信をお願いします。現在 2 年間の就任期間が  
終了し引き続き就任をお願いしています。

1. 梶 <sup>ます</sup> 太一 <sup>たいち</sup> 氏 (日本テレビアナウンサー)
2. ガリガリ君 (赤城乳業株式会社 キャラクター)

8) チラシ：「みんなの東京湾みんなで再生」の活用 CSR-NPO未来交流会、経団連自然保護  
協議会主催の展示、東京湾大感謝祭などで東京湾官民連携フォーラム活動の説明用に活用してい  
きます。

## 2.個別政策への取り組み(交流・連携活動)

### ●交流・連携活動

#### 1) CSR-NPOの交流会の実施

平成 29 年度の実績を踏まえ、参加組織・団体、企業の相互の事業を紹介し合うことで、それぞ  
れの組織が抱えている課題解決の意図口となる場を提供します。

平成 30 年度は、NPO、任意団体相互の異業種交流、企業とNPO・任意組織団体との交流や山か  
ら海に至る循環を意識した交流を図ります。

・平成 30 年度は 7 月実施予定

■平成 30 年度交流会、<開催日予定>

○交流会開催日時（案）：平成 30 年 7 月 19 日(木) 13:00~16:30

<開催共通項目>

- (1)開催場所：東京都千代田区麴町 5-1 弘済会館（予定）
- (2)参加目標：フォーラム会員 + 非会員：企業、NPO等 40 団体
- (3)参加費：500 円/人（会場費、資料代、お茶代）
- (4)交流会プログラム予定
  - ・テーマ：交流から生まれる組織連携
  - ・講演－1 組織連携による取組活動（企業、NPO）
  - ・交流会：参加企業、参加NPO等交流（企業・NPO等情報交換）

平成 29 年度の経験と反省点などを含めて交流会を検討・見直します。

- ・企業組織の参加増の検討
- ・交流会でのマッチング事例づくりの実施(交流会のフォロー作業の実施)
- ・交流会でのマッチング方法の検討（グループセッション、参加組織のポスターセッション枠の提供など、方法の検討）
- ・名刺交換時間の設定など

◆成果・交流経過：現在大手電機メーカーと NPO との橋渡しができ、コラボレーションの経過・進展が期待できます。（事例作り）

<参加実績>

平成 28 年度	7 月 14 日	参加：27 団体	人数：33 名
	12 月 8 日	参加：16 団体	人数：21 名
平成 29 年度	7 月 20 日	参加：33 団体	人数：47 名
	2 月 1 日	参加：28 団体	人数：46 名

◆平成 30 年度の目標

- 平成 30 年度予定：7 月 19 日開催 参加：40 団体 人数：60 名の目標
- CSR－NPO未来交流会のステージアップのための試み実施
  - ・NPO の活動を広く知らせるためにより細分化したテーマの追求。参加者の専門性を引き出し、最新事例などのノウハウ、知見の情報提供の場を作り上げる。
  - ・フォーラム PT 活動を市民・生活者へ知らせる活動の強化

■東京湾ファインド未来・企画（PT と生活者・市民をつなぐ企画）

- ・東京湾の窓 PT のスタンプラリーを応援する「東京湾ファインド未来」
- ・HP で協賛、紹介記事の作成などを実施します。
- ・東京湾に関連する施設 海上公園、博物館、自然、資料館、税関資料館、図書館など多様な目的の施設の中で、環境保全、自然の恵みを題材として取り上げ、NPO との交流の後押しを実施します。

## 2) 施設見学会の実施

環境改善や環境再生に寄与する施設を見学し、東京湾再生のためのノウハウの共有、改善方策検討の参考として頂くことを目的に施設見学会を実施します。沿岸の公共施設の管理や公共プロジェクト事業へのNPO等が協働参加している事例を実際に見聞し、東京湾の環境再生への市民参加事例研究の場を会員へ提供します。

平成30年度は9月実施予定。

見学対象施設候補(案)

- ①東京港中央防波堤外側埋立処分場・廃棄物処理施設+スーパーエコタウン  
<https://www.tokyokankyo.jp/kengaku/chubo.html>
- ②国立研究開発法人 港湾空港技術研究所(神奈川県横須賀市久里浜)  
大規模波動地盤総合水路、干潟実験施設、水中作業環境再現水槽他
- ③水産業関係施設
- ④防災関係施設

対象・参加者はフォーラム会員を対象に募集

参加費・1,000円程度(資料、交通費など)

平成28年度 7月14日 参加者:28名(横浜港周辺中心)

平成29年度 9月21日 参加者:28名(新日鐵住金(株) 技術開発本部 海域環境実験施設)

平成30年度:9月(予定)、参加者 28名(予定)

### ●他団体との連携

引き続き国連生物多様性10年日本委員会、経団連自然保護協議会などへの参加協力をはじめ、日本財団「海と日本PROJECT」推進パートナー会員への参加など各組織団体と連携したフォーラム活動を推進し、東京湾の水環境の改善、生き物保全といった地球環境全体の取り組みを図っていきます。

### ●後援・協賛の受付

平成29年度は研究会をはじめ3件の後援を実施しました。平成30年度も同様に後援協賛を実施していきます。

### ●東京湾沿岸域のイベント情報発信

東京湾大感謝祭の活動を点の活動から面的活動の広がりを中心掛けていきます。東京湾への関心を高めるため、東京湾沿岸域のイベント、フェアとの連携を模索していきます。具体的には、相互での告知活動やフォーラムロゴを使用した連携を図ります。

### ●江戸前ブランドの情報発信

東京湾に生息する魚の種類は760種類に上ります。中でも、生活者が江戸前として、周知しているのは、あなご、あさりなどわずかです。この江戸前の魚介類の食材をさらに生活者・市民に認識していただくためにも、水産物の魚食文化を大切に、食育に注目した活動を視野にとらえ、江戸前P.Tの活動をサポートしていきます。

平成 29 年は、「生物多様性アクション大賞 2017」に入賞、引き続き、江戸前ブランドの情報発信活動を実施していきます。これらの活動を通して、江戸前ブランドの向上・普及と東京湾の魚介類の地産地消を図るとともに、東京湾再生や水環境への関心を高めていきます。

#### ●調査研究（PT サポート）

P T活動を支援し、主に現場や実証作業、ワーキングなど具体的活動の充実を図っていきます。

- ①現在、「指標活用 P T」、「生き物生息場づくり P T」、「東京湾パブリック・アクセス方策検討 P T」、累計 3 件の政策提案を実施し、これらの提案に伴った継続した P T フォロー活動も実施されています。それらのサポートを行っていきます。
- ②「海水浴復活方策検討 P T」では、東京都港湾局、江戸川区、港区、大田区など、行政との連携を図り、より現実的に即した、東京湾の内湾での海水浴復活について、取りまとめを行い、2018 年度の総会承認を目指して、提案を事務局とすり合わせしながら進めていきます。
- ③「東京湾パブリック・アクセス方策検討 P T」では、平成 28 年度に政策提案「東京湾パブリックアクセス方策に関する第一次政策提案」を行い、提案のフォローさらには、二次提案に向けた準備を開始しています。
- ④「東京湾の窓 P T」は今までの活動を通して、活動の柱を「スタンプラリーの実施、環境研究会実施」の議論を深かめ、さらに今後の政策提案に向けた検討を予定しています。
- ⑤「東京湾浅瀬再生実験 P T」は、事例研究活動を今年度も実施予定です。

特徴ある P T活動を推進できるようフォーラム事務局では、サポートを行っていきます。

#### ●相談窓口（コンサルティング）

- ①連携・調整の活動で具体化された相談受付をウェブや会員とコミュニケーションし、実施していきます。交流会で新しい組織団体などからの相談を実施していきます。
- ② P T活動における多様な主体との相談、調整等を行います。

#### ●啓発・人材育成

各 P Tの啓発・人事育成サポートの実施に取り組みます。

### 3. 統一テーマでの活動

- 1) フォーラムは、東京湾大感謝祭を、東京湾再生活動の広報活動の一環としてサポートしていきます。
  - ・ N P Oなど関連団体の参加をより多くした交流の輪を広げる活動
  - ・ 生活者、消費者が東京湾を気付き、意識してもらえる取組活動
  - ・ 9つある P Tの活動の発表の場として、日頃の活動を P Rするサポートの実施などを主眼としています。

「東京湾大感謝祭 P T」は平成 27 年度より「東京湾大感謝祭実行委員会」をスタートさせ、組織はより自主性のある活動と組織化による作業チームの分担体制により実施されています。

平成 30 年度も引き続き横浜・赤レンガにて、10 月 20 日～21 日に東京湾大感謝祭 2018 の開催を予定しています。

プログラムは、平素のフォーラム活動、PT 活動における成果発表の場となり、東京湾再生への全体活動の普及・啓発を意図しています。参加型のプログラムの検討やフォーラム事務局での感謝祭企画展示などを検討していきます。

平成 30 年度の入場者目標は 9 万 8,000 人(平成 28 年度実績) 人を設定しています。東京湾再生への関心を高める生き物や環境全体への関心を高めることで、東京湾からの恵みの重要性を認識していただき、自分たちにとり、東京湾の重要性と多様性を認識する機会を提供し、フォーラム活動の意味を理解していただける組織・団体、個人の方々等、一人でも多くの賛同者を増やし、東京湾再生の輪を広げていきます。

本祭で実施されるコンテンツ企画は、親子で楽しむことができるようファミリー層へのアプローチが中心です。横浜で 5 年目を迎え、地元の企業、行政への認知・横浜市の共催参画が実現し、今後、ますます交流の場としての活用が期待できます。

#### 4.政策提案

上記 1. から 3. の活動により得られた東京湾再生への成果、課題等を取りまとめ、東京湾再生推進会議へ、具体的な取組や改善策等の提案を目指します。

平成 30 年度は、東京湾再生のための行動計画（第二期）へ寄与するため質・量ともに向上した政策提案ができるように P T 会合や企画運営委員会での審議の深化を心がけます。

なお、今後政策提案予定は、「東京湾での海水浴復活の方策検討 PT」、検討段階に入る PT は、「東京湾の窓 PT」、「東京湾パブリック・アクセス方策検討 PT」、「江戸前ブランド育成 PT」です。

#### 5.フォーラム法人化検討委員会活動

平成 30 年総会に向けて、一定の方向性を総会報告予定です。

フォーラムの法人化を検討してきましたが、様々な観点から法人化のメリット、デメリットを比較検討しながら進めてきました。まだ一定の結論に至ってはいませんが、今年度中には一定の方向性を出して、平成 30 年 10 月の総会に諮ります。そのために 9 月の企画運営委員会への報告を目指します。

#### 6.広報 PR 活動の強化（スポンサーを得るための周知活動設定）

東京湾再生官民連携フォーラム活動の周知に向けた施策として、以下の点において PR を検討する。

- ・フォーラムミッションまたは活動を表現した分かりやすいキャッチフレーズなどの検討
- ・フォーラムの目標を外部から見てわかりやすい PR 活動の設定を検討する。

目標設定例：2020 年 東京湾オリンピックおもてなし活動

世界遺産のための東京湾環境活動

- ・東京湾での市民・生活者・生産者等活動の表彰制度の設定

東京湾で活動するまた寄与する組織・団体及び生産者に対して、テーマを決めて表彰する。

例えば、「東京湾の日」 記念日制定サポート活動  
「東京湾生きものイキイキ」サポート活動  
「江戸前イキイキ活動」 佃煮 寿司 干物・・店舗、清掃・・。

## フォーラム活動Ⅱ

2018年 4月	東京湾再生官民連携フォーラムマッチング交流会広報・参加団体募集
	東京湾大感謝祭参加企業募集
	東京湾再生官民連携フォーラムPT活動支援
	東京湾大感謝祭参画支援(イベント企画調整)
	東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)
2018年 5月	H30 第1回企画運営委員会開催
	東京湾再生官民連携フォーラムマッチング交流会広報・参加団体募集
	東京湾再生官民連携フォーラムPT活動支援
	東京湾大感謝祭参画支援(イベント企画調整)
	東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)
2018年 6月	東京湾再生官民連携フォーラムマッチング交流会参加団体情報取りまとめ
	東京湾大感謝祭参画支援(イベント企画調整)
	東京湾再生官民連携フォーラムPT活動支援
	東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)
2018年 7月	東京湾再生官民連携フォーラムマッチング&交流会開催(企業・NPO)
	東京湾大感謝祭参画支援(イベント企画調整)
	H30 第2回企画運営委員会開催
	東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)
2018年 8月	東京湾再生官民連携フォーラムマッチング交流会フォローアップ
	モニタリングPT支援(東京湾一斉調査)
	東京湾再生官民連携フォーラムPT活動支援
	東京湾再生官民連携フォーラム及び東京湾大感謝祭チラシ、ポスター作成配布など
	東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)
2018年 9月	東京湾大感謝祭参画支援(イベント企画調整)
	東京湾再生官民連携フォーラム・総会支援
	東京湾再生官民連携フォーラムマッチング情報募集・公開
	H30 第3回企画運営委員会開催
	東京湾再生官民連携フォーラム企業・行政等施設見学会 東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)
2018年 10月	東京湾大感謝祭参画支援(イベント企画調整)
	東京湾再生官民連携フォーラム 第6回通常総会
	東京湾大感謝祭開催
	東京湾再生官民連携フォーラムPT活動支援
	東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)
2018年 11月	東京湾再生官民連携フォーラム東京湾大感謝祭報告書作成
	東京湾再生官民連携フォーラム大感謝祭来場者へのアンケート調査実施集計
	東京湾再生官民連携フォーラムマッチング&交流会開催(企業・NPO)
	東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)
2018年 12月	東京湾再生官民連携フォーラムPT活動支援
	東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)
2019年 1月	東京湾再生官民連携フォーラムマッチング交流会フォローアップ
	東京湾再生官民連携フォーラムPT活動支援
	東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)
2019年 2月	東京湾再生官民連携フォーラムマッチング情報募集・公開
	東京湾再生官民連携フォーラムPT活動支援
	東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)
2019年 3月	H30 第4回企画運営委員会開催
	東京湾再生官民連携フォーラムPT活動支援
	東京湾再生官民連携フォーラムマッチング情報募集・公開
	東京湾再生官民連携フォーラム会員募集(団体、個人)

## 平成30年度予算

2018/5/1

## 【収入の部】

(単位:円)

科目	H29年度決算	H30年度予算	備考
1. 寄付金収入	61,080	60,000	
2. 助成金収入	4,000,000	4,000,000	セブーン-イレブーン記念財団他
3. 雑収入	45,007	0	
普通利息	7	0	
その他	45,000	0	
(A) 単年度収入合計	4,106,087	4,060,000	
(B) 前年度繰越金	4,402	1,641	
(C) 収入合計 = (A)+(B)	4,110,489	4,061,641	

## 【支出の部】

(単位:円)

科目	H29年度決算	H30年度予算	備考
1. 事務局経費	3,140,013	3,204,120	
1) 事務局人件費	2,710,849	2,753,120	事務局員1人
2) 事務局運営費	429,164	451,000	HP管理・更新、通信費
2. フォーラム事業費	968,835	855,880	企画運営委員会会場費借り上げ費、フォーラム総会会場借り上げ費、フォーラム交流会会場借り上げ費、広報宣伝費等
(D) 単年度支出計	4,108,848	4,060,000	
(E) 単年度収支差額=(A)-(D)	-2,761	0	
(F) 次年度繰越金=(C)-(D)	1,641	1,641	